

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本空港新ビルB棟	階数	地上2F		
建設地	熊本県上益城郡益城町小谷字上大	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	200 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	事務所,物販店,飲食店,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年2月5日		
敷地面積	217,058 m ²	作成者	株式会社三輪設計 岡田		
建築面積	2,119 m ²	確認日	2022年2月5日		
延床面積	3,349 m ²	確認者	株式会社コスモスモア 金子		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率 **75%**

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進 **91.0**

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **61.2**

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全 **80.0**

【重点事項4】 循環型社会の実現 **89.2**

評価点 **82**

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

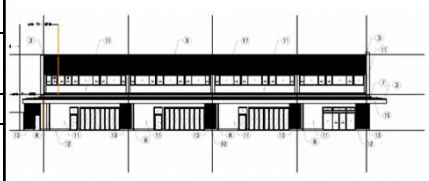
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本空港新ビルB棟	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡益城町小谷字上大	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・物販店・飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年2月5日
敷地面積	217,058 m ²	作成者	株式会社三輪設計 岡田
建築面積	2,119 m ²	確認日	2022年2月5日
延床面積	3,349 m ²	確認者	株式会社コスモスマア 金子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.1	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 2.6

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.8	LR2のスコア = 3.5	LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 評価点 = 82

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 91.0	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 61.2
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 80.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 89.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外皮・一次エネルギーともに省エネ基準を満たし、高効率の設備の利用により省エネを図っています。

Q1 室内環境

ノンアスベスト品及び、ノンフロン材の建築資材を全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。

Q2 サービス性能

給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。

Q3 室外環境（敷地内）

特になし

LR1 エネルギー

BEI=0.65とし、高効率設備の導入し、環境負荷への配慮をしています。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。

LR3 敷地外環境

十分な駐車場、駐輪場を設けています。また、近辺が渋滞しないような設計となっています。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本空港新ビルB棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境			0.40		-				3.1
1 音環境		3.0	0.15	-	-				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.68	3.0	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.32	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-				3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.45	3.0	-				
2 外皮性能		3.0	0.20	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.35	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-				3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.61	-	-				
1 昼光率		3.0	0.25	3.0	-				
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.75	3.0	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.12	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-				
3.3 照度		3.0	0.06	3.0	-				
3.4 照明制御		3.0	0.20	3.0	-				
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-				3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	建築基準法を満たす、70%以上の面積	4.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		3.0	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.43	3.0	-				
2 自然換気性能		3.0	0.14	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.43	3.0	-				
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	分煙の徹底、喫煙ブース、対策を十分にとる	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				3.2
1 機能性		3.0	0.40	-	-				3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.14	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.14	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.72	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観		3.0	0.40	3.0	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.20	-	-				
3 内装計画		3.0	0.40	-	-				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均の階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.13	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕や更新ができる	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみへの調和、良好な景観形成、関係基準の順守	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm:0.91	3.8	0.20	-	-	3.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.70	4.4	0.50	-	-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル:外構、ビニルクロス:各所、塩ビ系シート:床面	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のディティールを採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率に基づく換算スコア=4.1	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置き場、駐車スペース、荷捌き用車両等の施設、位置や形状への配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインの過半を満たす、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **(仮称)熊本空港新ビルB棟**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91	0.40	36.40
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.8	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				89.2	0.20	17.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数